

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成18年7月(2006年)No.487

第46回OMC映像フェスティバル

10月1日(日曜日)開催と決定

今年のOMC映像フェスティバルは、昨年同様、大阪市立中央会館にて10月1日(日曜日)午後1時より開催する運びとなりました。例年、秋の土日は各趣味の会の発表会が多く催されますので、会場申込みが多く抽選になります。3回ぐらい通って当たればよいなと思って、まずは3ヶ月前の7月1日に抽選にのぞみました。5人希望者が居り、くじ順はラストでしたが、運良く一番札を引当てることができました。まだ残暑が残っているかも知れませんが、台風の心配がないわけではありませんが、とにかくこの日を目標に準備を始めましょう。

フェスティバル上映作品は、昨年8月例会発表作品から今月7月までの例会作品の中より18本程度を選んでプログラム編成したいと考えておりますので、出品希望で未発表作品は今月の例会にぜひお持ち下さい。また既発表作品でも手直しして作品レベルを向上させた作品でも結構です。

とにかく、さすが、OMCフェスティバルのレベルは高い、と観客の皆さんによるこんでもらえる作品を期待しております。全200本以上の例会作品をDVDにて全部見直して厳正なる評価採点中です。7月例会後の適当な日に幹事の皆さんに集まっていたいただき、プログラム編成に着手します。

7月例会のお知らせ

7月例会は第4土曜日22日、午後6時より大阪市立難波市民学習センター(JR難波駅OCATビル4階)にて開催。どうぞお集まり下さい。今月迄の作品の中よりフェス上映作品候補とします。

撮影会作品公開コンテストのお知らせ

去る6月の余部鉄橋撮影会参加者の皆さん、作品はもう完成されましたでしょうか。せっかく撮影されたのだから仕上げて見せて下さい。公開コン審査は、7月29日(第5土曜日)18時より、いつもの例会場で互選により行います。多くの方の出品を期待します。撮影会に来られなかった方も、どうぞ多数お越し下さい。

大阪アマチュア映像祭は

11月12日(日)と決まる

このほど大阪市立中央図書館との打ち合わせで、図書館まつりの協賛事業として、大阪アマチュア映像連盟の映像祭は、11月12日(日曜日)午後開始と決まりました。

8月27日(日曜日)の大阪アマチュア映像連盟加盟クラブによるプログラム編成会議で内容が決まります。OMCからは2本程度の出品を予定しています。

200本からの作品を再拝見

今年のOMC映像フェスティバルは、10月1日と決定しましたが、これに出品して頂く作品をどう選ぶか、頭の痛い季節がやってきました。皆さん大変お上手になり、立派な作品が増えてきたため、18本程度に選び抜くのがうれしい悲鳴なのです。ですが、40名からの会員さんの凡そ200本余の作品から、18名程度の方の作品を選ぶということは、かなりの方の発表の場を奪うことでもあり、忍び難い点があります。そこで選考に客観性と公平性を確保するため、安居世話役が例会作品をDVDにして頂いているので、全作品を撮影、構成、編集、録音の4項目をそれぞれ5点法で採点し、更に、コンテスト入賞作品や、制作に苦勞されたと認められる作品等への加点をプラスして総合点をはじき出し、上位30作品ほどをリストアップして幹事会で決定する手筈になっています。現在、昨年8月例会分から順次採点中です。

■もっと削ればよくなる作品

拝見していて、同じようなカットの重複など、あのカットは削った方がすっきりまとまるのに、と思う作品が多くあります。

この作品のテーマに、このカットは必要だろうか、という視点で見つめ直して見ましょう。

■ラストに余韻の無いものは惜しい

せっかくいいムードで進行しているのにラストカットがあわただしく終る作品があります。BGMのエンドに合わせて、少なくともナレーションが終わってから30秒位のゆとりある映像を心掛けてください。

■テロップの使い方のまずいもの

文字が小さすぎるのも困ります。また文字の動きが速すぎると読めないし、遅すぎるとイライラしてきます。動きが途中で消えてしまうのも困りものです。

テロップは簡潔に、必要最小限にしましょう。画面で分かる場合は止めましょう。

■単なる観光PRは評価が低い

観光協会から頼まれて作る場合はともかくとして、せっかく自分のお金で旅をしたのなら、自分がこの旅先で何を感じたか、来て良かったのか、つまらなかったのか、ありふれた観光地であったとしても、自分の眼で感じた思いを作品で語りたいものです。単にきれいきれいでは困ります。

■4対3映像とワイドの混合編集もの

ワイドの作品の中に以前撮った4対3の画面が入ると、人物が太って見えたり、逆に4対3作品の中にワイドで撮った画面を入れるとタテ長の画面が出てきて何となく不自然です。明らかにそれと判る作品は、公開映写会には向かないと思います。

■現録や効果音をもっと活かそう

ビデオは音が同時録音できるのが良い点です。最初から最後までベターツとした平凡なBGMだけで終わらせずに、途中で、ここところをBGMをフェードして、かすかな鳥の声や水の音などを聞かせる等、現録やSEを強調すればメリハリのある音処理ができる筈です。一般的にBGMの選曲や音のレベルに課題がある作品が多くみられました。又、曲の終りは画面の終りとぴったり合わせ、フェードでごまかさないようにしましょう。

以上、感じたことをのべましたが、今年も良い作品が選べそうです。(合原)

6月例会のレポート

今年の梅雨は集中豪雨など水害があちこちで放送されるなど、からりと晴れた日が少ないようです。梅雨もまたあじさいの花など被写体が一杯と、撮影を楽しんでおられる方も多いと思います。

今月の例会は先月の30名出席よりやや少なく平常の26名でしたが、作品は14本と出品され、時間一杯充実した例会でした。今月も4対3作品は4本のみで、あとはワイドかハイビジョンばかり。この傾向

がすっかり定着した感じがします。昨年の今頃とはサマ変わりです。今月の司会是有村氏、書記は関氏、デッキ担当は増池、江村の両氏。受付は宮崎さんらの担当で進行。

■出席者：有村、石垣、岩井、江村、奥、上総、紙本、黒田、合原、進藤、関、玉井、鉄具、西井、秦、華岡、前田、増池、松本、森口、森、森下、森田、安居、山本、吉岡の26氏。

■上映作品（今月の講評は関世話役です）

1. 今宮十日戎

森 保信さん 6分14秒

あの人混みのなかで三脚は使えるはずがない。なのに、ほとんど手振れなしとは驚きだ。宝恵駕籠行列以後は夜の賑わい風景だが、昼間と間違ふほどきれいに撮れていたのはVX2000の威力か。その中でも福娘のみごとなまでの‘ど’アップには恐れ入った。映像感覚はまだまだお若いな、と感じた次第だ。

2. 篠田の火祭り

玉井 勺さん 7分41秒

松明や造作物に火をつけるのではなく、メインは仕掛け花火だから火祭りとしては異色。ドンパチ、ぐるぐる、と、華やかな場面は観客の歓声も聞こえたが、ラストの青白い炎の線で描かれた塔のある風景画はこの作品のやま場。まことに幽玄の世界だが、その情趣にひたる観客の姿が一瞬しか出てこなかったのは惜しい。仕掛けの製作過程がテレビからの録画と言うのも少し抵抗が残る。

3. 起し太鼓

吉岡貞夫さん 10分00秒

飛騨古川の奇祭。本祭の前夜、町衆の眠りを覚ますために打ち鳴らした太鼓とされ400有余年の伝統をもつ。作者が訪ねた日はあいにくの空模様だったが、冷たい雨にもいとわず、精力的に追い求めた映像には迫力が満ち溢れていた。このとき同行した7人のなかで本祭を除いて最も優れた作品と認める。

4. メコン中流編

山本正夢さん 11分30秒

チベット高原に源を発したメコン川は中国を過ぎるとラオスとミャンマーの国境線になる。この辺りは多くの少数民族が暮ら

しているその風俗もさまざま。また敬虔な仏教徒たちだ。作者はもっぱらオートバイと渡し船で撮影行脚をつづけ、その距離は相当なもの。今回はいつものような少数民族の生活に直接触れる映像はなかったが、その代わりに黄金の輝きを放つ美しいメコンの流れがあった。山本さんにしては珍しい叙情詩的作品。

5. 雪の三千院 (ワイド)

進藤信男さん 8分55秒

まずイントロは三千院の門前町。いっばしの繁華街と言うべきか、筆者が足繁く通った20年ほど前とはまるで様変わりした感がある。普段は緑のビロードを敷き詰めたような聚碧園も墨絵のよう。ひとり広縁に座って庭園を眺めていた人はどんな物思いにふけていたのだろうか。冬の大原は京都市内とはいえ雪深いところ。それでも観光客がひきもきらないのは、人々が物心両面に余裕のできた反映か。昔はカメラマンがちらほら以外ひとつこ一人見なかったと記憶している。

6. 貴船祭 (ワイド)

森口吉正さん 9分30秒

新緑がまばゆい貴船界限は川沿いに床で有名な料理屋が軒を連ねる。貴船神社の祭は毎年6月1日。参詣者が求めたおみくじは水に浮かべると文字が見えてくるという趣向で、いかにも水の神様らしい。さて祭り本番。神輿の担い手は町内の若衆だけでなく、全国に500もある分社の氏子たちがこの日のために駆けつけたそう。作品のハイライトは“やまたのおろち”退治の神話に基づく神楽。10メートルはあろうかと思われる張り子の胴体に入って一人で操る迫力の演技は勇壮そのもの。タイトルの名前を見ただけで安心して鑑賞できるのはこの作者の強みか。

7. 桜並木 (ワイド)

増池 茂さん 6分34秒

淀川上流の三川合流地点の堤防を背割堤と言い桜の名所で知られている。ほぼ満開の桜並木が延々と続く様はじつに壮観だ。花のアップ、見物客なども適宜に配し、その撮り方も当を得ていた。花をテーマにするのは難しいが、あえて選んだ意気込みを買いたい。

8. 高瀬川 その源流は今 (ワイド)

鉄具嘉夫さん 10分00秒

鴨川とはぼ平行に流れる高瀬川は安土桃山時代に時の豪商、角倉了以が京と大阪の物資輸送のために築いたという。鴨川からの取水口は当時了以の別邸があった庭で、いまは料亭になり、あの“がんこ”が経営しているらしい。ところで作品の題名だが「…は今」とつけると以前と違った何か異変が起きているようなニュアンスがある。この内容なら、…をゆく。探る。訪ねる。でよいのではないか。ナレーションは簡潔に。そして小さい字で行数の多いテロップはできるだけ避けて頂きたい。なぜなら、その間、観客は読むことに専念し、映像はろくに見ていないから。

9. 雪の情景 (HDV)

江村一郎さん 4分30秒

前後につながりのない断片的映像を作者独特の感覚と編集テクニックですばらしい心象風景を描きだしている。長さも適切だし、選曲もぴったりだった。おみごと、と言うほかない。聞けば雪道を走りながらハンドル片手に撮影したそう。危ないね。

10. あじさいの三室戸寺 (HDV)

奥 宏さん 6分39秒

京都・宇治の名刹。あじさい寺と言うだけあって、この時期たいへんな人出のようだ。HDVに転向以後、毎月欠かさず新作を発表されているが、その熱心さには頭がさがる。この作品、じつは3日前に撮影したそうで、その早業にただ驚くばかり。

11. 冬の裏磐梯 (HDV)

有村 博さん 7分31秒

雪の原野、清らかな流れ、静かな湖。例えるなら動く水墨画とでも言おうか、みごとにポエム作品。前回拝見した時は余計なテロップやナレーションで少々幻滅を感じたが、それがなくなりすっきりした。ただこの音楽はスローテンポでも、実はかなり騒々しい。これは感覚の問題だから個人差があって当然。しかし静寂感が漂う映像にこの音楽はたいへん邪魔をしているのではない。私はそのような印象をうけた。

12. チェンマイは花いっぱい (HDV)

森田光春さん 9分00秒

蘭の育成販売のお店と手工芸の和傘(タ

イ傘かな?)を作る現場の二部構成。題名では町中が花で飾られているとの印象だがそれらしいのは最初に出てきた舗道の花壇と思しき所だけ。あとは花屋の店先で撮ったものと思う。むしろ後半の傘づくりの方が内容も豊かで作品を盛り立てていた。

13. 宵宮祭 (HDV)

上総修一郎さん 7分53秒

どことも祭を盛り上げるのはだんじりだが、提灯が主役というのも珍しい。これは宵宮だから、だんじりはたぶん町のどこかで本番に備えているのだろう。その代りに太鼓と踊り。打ち鳴らすのは女性チーム。そしてグループが披露した踊りはよさこいそーらん。これも時代の流れか。

14. 人が仏になる日 (Victor HDV)

前田茂夫さん 13分50秒

信者の寄進により、今年はお練りに使われる面(おもて)が新調された。たいへん高価なものだと言う。仏前に並ぶ信者たちにその面が順々に着けられていく。ほんの一瞬だが、そのとき信者たちはどんな心境だったろう。曼陀羅練供養は当麻寺では最も重要な行事。その準備中の堂内に作者はカメラを持ち込んだ。一般は立ち入れなはずだが、なにかコネがあったのだろうか。

大観衆が境内を埋め尽くす中で今年もお練りの行列が静々と進んでいった。この元となる中将姫伝説はさて置き、あの面。金ぴかより頬の剥げ落ちた古色蒼然の方が何だか有難味が沸くような気がするが。

◆余部鉄橋撮影会が終わって (前田)

撮影会から早や1ヶ月少々。すでに作品は完成したと、悠々とされておられる方や、これから最後の追い込みと、頑張っておられる方もいることと思います。撮影会を企画した担当の一人として、当日ビデオカメラで撮られた方には全員作り上げて欲しいものと念願しています。色んなツアー情報をみると、関東や九州から3~4日で余部鉄橋を巡るツアーが結構たくさん募集されています。これから、来年3月までに多くの観光客が訪問し鉄橋の壮大な景観にふれて感激してもらえたらファンの一人として嬉しいです。同時にあと半年ほどで見事な景観が失われます。日帰りで行けますので、ブラリと行かれたらいかがでしょうか。